

平成27年度 第2回黒潮町総合教育会議議事録

【日時】平成27年9月25日（水）15：45～17：15

【場所】保健福祉センター 2階 健康研修室

【出席者】（町長）

大西勝也

（教育委員会）

坂本教育長

山下教育委員、都築教育委員、濱田教育委員、池田教育委員

（事務局）

武政総務課長、西村課長補佐、谷主幹

（その他出席者）

畦地教育次長

（傍聴者）

無し

【議事】

(1) 黒潮町総合教育大綱について

(2) その他

【議事録】

事務局（西村）	ただいまより、平成27年度第2回黒潮町総合教育会議を開会いたします。教育委員のみなさまは、定例会に引き続きということでお疲れのところ申し訳なく思っております。それでは、開会にあたりまして、町長大西より開会のご挨拶を申し上げます。
町長	定例会の後の総合教育会議ということで長時間にわたっての会となりますが、ご出席ありがとうございます。 第1回のおさらいではないですけれど、教育大綱を策定することで合意をいただきました。また、第1回の時も申し上げましたけれども、出来るだけ委員のみなさまからの幅広いご意見をお伺いして、町長部局の押し付けにならないような大綱の策定をしたいと…、プロセスを大事にしたいと思っております。 今日の会に臨むにあたり教育長・次長には、度々本庁の方へもお越しただいて会の進め方の協議をしてまいりましたが、第1回の時は、自分の方が固いお話しから切り出したせいか、幅広いご意見をいただくというような場ではなかった気がいたします。今日は、出来るだけ

<p>事務局（西村）</p>	<p>ざっくばらんにご意見を広くお伺いすることができればと思っております。一端、ペースの乗ると決まっていくことは決まっていくと思っております。最初のスタートが大事だと思っておりますので、そのプロセスを大事にしたいと思っております。本日はどうぞよろしく願いいたします。</p> <p>お手元にレジメを配らせていただいております。町長からも申しましたが、本日の会は、大綱についてのご意見をざっくばらんに出していただきたいと考えております。忌憚のない意見を出していただき、そしてそのご意見を基にこれから先の進め方等も検討いたしたいと考えております。前回の振り返りとなりますが、第1回の会議では、大綱の策定につきまして皆様から「策定する。」ということで合意をいただきました。</p> <p>それでは、大綱の策定にあたりまして「どのように作っていくのか。どういうものを作ったらいいのか。どういうふうにかんがえたらいいのか。」ということも含めましてご意見を出していただけたらと思っております。いきなり意見を出してくださいと言いましても出しにくいと思っておりますので、町長・教育長からご提案をしながら、それに対しご意見をいただけていくような形で進めてまいりたいと思っております。</p>
<p>町長</p>	<p>前回、大綱策定の合意形成に至るまでに、環境整備、関連する要因を少しお話させていただきました。委員会の方でこれまでに策定されています基本方針であったり、それに基づく教育施政方針であったり、あるいは町長部局の町政施政方針であったり、そういったものの関連性について説明をさせていただきましたが、総じて大綱が出来るとどういう位置づけになるのか、いうところを共有させていただければと思っております。提示はさせていただきますが、「ここはこうではないか」といったようなご意見をいただきたいと思っております。あくまでも枠組みのお話ですので、中身についてはまた議論していくことになろうと思っております。</p> <p>大綱を作るとどのようなことになるのか。こんなふうになるのかと思っております。思っていることがありまして…（机付ボードへ板書）、2段構えになると思っております。よく事業を行うとき、基本計画と実施計画がありますが、そんな位置づけになるのかと思っております。基本計画が大綱で、実施計画が基本計画といったことになると。もちろん大綱が上位計画ですので、大綱を作るとそれを実際に具現化していく基本計画というものを組むようになります。大綱でまず、理念を示し、その理念のエビデンスといえますか、今後、子どもたちには「こういう教育を施して</p>

いくんだ・こういう人材育成をしたいんだ・こういう人に育ててほしいんだ」プラス、今ある環境ですね、振興計画の中に教育委員会として背景を取りまとめていただいておりますが、出来ればそこに、いま組んでおります総合戦略の人口ビジョンを少し反映させていただければと思っております、理念・背景の整理が必要だと思っております。そして理念を具体化する基本目標、ここまでが大綱の分野ではないかと思っております。委員会でお持ちの基本計画の中に基本目標もしっかりと定められております。大綱の中で基本目標が①・②・③・④となっていくと思えます。(お礼ボード 板書)ここまで策定しますと、下位計画である基本計画がどのようになるかといいますと、基本計画では基本目標の1番目はこういうことです。大綱の中の基本目標①と同じものがここに入ります。それを具体的に達成するためには、こういうプログラムが…といったような記述が入るようになります。同じように、基本目標②が続き、③が続くといったようになろうかと思えます。

自分たちが大事にしなければならないことは、冒頭でも仕上げましたように、町長部局の押し付けにならない、そしてこれまで委員会の方でも定められております目標等ございますので、当然のことながら基本目標のところには、委員会に取りまとめていただいております目標も掲載される。その上で、町長部局としての目標も掲載させていただくことにはならないかといった相談もあろうかと思えますし、これから様々な情報交換をする中で、委員会でこれまではこういう基本目標だったんだけど、少しここを変えるところになるかといったようなこともあってしかるべきだと思っております。そのような場がこの総合教育会議になればと思っております。

理念、黒潮町の教育はどうあるべきなのか、そしてその教育を施す目的は何なのか、突き詰めていくとどのような町をつくっていくのかということになるかもしれませんが。この理念の取りまとめが一番大きなところだと思います。この理念をどう起こすのかを総合教育会議で出し合い話をして、加筆修正を繰り返しながら最終的に理念を取りまとめたいと思っております。

(人口ビジョンを板書し説明)

人口問題について何かのきっかけになればと考え少しご紹介させていただければと思えます。

まだ方針を決定しているわけではございませんのでご留意ください。(人口ビジョンを板書し説明)今から45年後の2060年の人口目標を設定しなければならないとなっております。パターンのには5つくらい考えています。1つは、人口が最も減らずに回復期ができるだけ手

<p>教育長</p>	<p>前にくる。これは県が公表したもので、人口557千人となります。県は割と強気の目標設定としておりまして、それに合わせて町の目標設定をするとかなり人口が減らずに手前で人口回復期がスタートするようなこととなります。県が公表したのは全域であり周辺部の人口減少が著しいと思われるところと、高知市のように割と踏ん張れる地域が一緒になってしまっています。実際のところ周辺部の自治体というのは、県が示したものと乖離するのかなと思います。</p> <p>もう1つ、何も手立てをしない場合の人口推計を出したものがありますが、この現実と乖離している2つは、できれば町としては採択しないといった方向で調整させていただきたいと考えています。残ったパターンですけれども、2060年段階で5千人台、約半減といったくらいの人口減少となることとなっています。これは今の総人口とその総人口を構成する年齢別の人口分布、これが将来人口を大きく左右するという事になっているので、これからの手立てで人口減少幅を減らすこともできますし、人口回復期を出来るだけ手前に持つてくることはできますが、ほとんどの決定は、今の総人口と年齢別分布ということになっているので、減少トレンドというのは免れないと思っています。そして、今回教育大綱を作らせていただきたいと教育委員会の申し入れした最大の理由はここにありまして、例えば2060年に人口が半減したときに町の機能はどなっているのか…といったことを考えますと、しっかりと地域を支える人材を町内に輩出するような施策を打っていかねばならない。もちろん町長部局としても精一杯やりますが、教育長部局の方でも何らかのことを共同で作業できないかなど、あるいは人口が半減した時の産業はどうなっているのだろうか…予想は難しいけれども、数字だけから判断するとそういったことが危惧されます。よって町全体を上げて町長部局、教育長部局の垣根を越えて是非大綱を作らせていただき理念を作り、そしてそれを具体化していく、そういった政策大綱になればと思っています。</p> <p>決して押し付けではないので、いろいろ自由なご意見をいただくのにネタになればと思いご紹介だけさせていただきました。</p> <p>この前に定例の教育委員会をしておりましたが、最後の方で、教育会議についての話をいたしました。町長の方から大綱の意味等の話があったわけですが、要は問題なのは人口減少社会となってくるわけですが、その部分で教育委員会あるいは教育の中で出来る部分はどうか…ということではないかと思うわけです。そのことに関しても意見が出ましたが、出来る部分と人口減少という部分はあくまでも黒潮町の部分を加えた中で考える場合と、幡多地域・高知</p>
------------	---

	<p>県を加えたものなどいろいろあると思いますが、教育の部分で考えますと、そこだけに目が行っても駄目なわけで、ひとつの課題としてあってしかるべきだと思います。この会議では、こういった議論になるのではないかという話をさせてもらった。「教育の部分では、そんなことは…」といったことになろうかもしれませんし、いろんな意見があると思うので、いろいろ意見を出してほしいと話しました。</p>
町長	<p>教育長のおっしゃる通りで、全部をこれに当てはめて「教育で外に出ることなく、全員町内へ残る」といったような教育を施してくださいというのは、教育の理念からは逸脱していると考えます。高度の学習環境を求められたり、こっちにない職種を求めて外へ出られる方は、町としても支援をしなければならないと思います。ただ、前回の会議で申し上げましたように、黒潮町の魅力とか様々な情報を適切な情報量を持っていて、町外と町に残ることが、ちゃんと天秤に乗っているのか不安があります。</p> <p>出し合い話ですので…、意見が出やすいように、ひとつ紹介させていただきますと、「地元の子、地元への貢献を義務化するような理念を作りましょうか」といった話が出ました。地元にいる間は、一生懸命、親孝行であったり地域貢献であったり、あるいは社会活動を通じて地元へ貢献いただく。残っていただいた方は、消防団など社会活動を通じてずっと貢献いただくわけですけど、例えば、出ていった方は、ふるさと納税や…、お金というわけではなく、何らかの形で故郷を思っていただく。できれば貢献していただく。そういった人材を輩出するようなことはできないだろうかといったことでした。極端かもしれませんが、こういった話もしました。</p>
教育委員 (山下)	<p>引き留めるにはやっぱり「就労の場を…」というふうに思うわけですが、大きな企業が来るといのはなかなか難しいと思います。黒潮町には農地と山と海といった立派なものがありますので、農業・林業・漁業に入るのは、いくら稼ぐかは別として、比較的入りやすい職業ではないかと思えます。この3つの職業について、何か子どもたちに「体験する」とかそういうことを行って、将来的にこの3つの内のどれかに就くような子どもがたくさん出てきたらいいと思います。少しは（人口が）減らずに済むのではないかと思います。</p>
教育長	<p>現実はそのがなかなか厳しい状況になっています。この厳しい状況を親の世代がそれを厳しいという認識をしているところがあるので、子どもにそういったことを継がしたくないというか、そういった職に</p>

	<p>就かせたくないというような考えもあって、あえてそれを勧めないということもあると思うので、そういったことも変えていかないとかなかなか教育だけでは難しいのではないかと思いますし、親は子どもには本音としては近くに居てもらいたいということがあると思いますが、現実にはそれができる環境がないので…。</p>
<p>教育委員 (山下)</p>	<p>おっしゃる通り、ぼくもそういった考えできたし、そう思っていました。今、退職しまして、病気にもなって…、しかし元気になって働くとなったら何をしようかと考えたときに、木を切ったりといったことはできるのではないかと、就きやすいのではないかと最近特に思っています。やってみて今までとはちょっと考えがちがってきています。</p>
<p>町長</p>	<p>具体のお話は、これからいろいろ出てこようかと思います。委員がおっしゃったこともその通りだと思います。ではそれを具体化していくためにはどうしなければいけないのかといった知恵もこれから捻っていかねばなりません。まず、先ほど申し上げました「理念」ですが、理念で何を謳わなければならないのか。町長部局からの話で行くと理念の中に産業を守ってほしいとか町を守ってほしいとかといったことも謳ってほしいとかありますけれども、委員会としての立場からすると教育を施される本人の成長のこと等が一番だと思いますので、いったいこの理念に何を盛り込んでいくのか大枠で見えてくると具体的な文言にしやすいのではないかと思います。</p>
<p>教育委員 (濱田)</p>	<p>「黒潮町に生まれた子は、黒潮町が育てる。」といったのは…。</p>
<p>教育委員 (都築)</p>	<p>黒潮町の歴史にあって、これは残していきたいというのがあると思います。そこの部分と、これから変えていきたい部分とかを融合させて理念に変えていくというような、それを言葉にしていくというところに（理念が）ありそうな感じがします。考え方とすれば、「大事にしてきたもの」「今まで何十年・何百年と続けてきたもの」と、これから「こうなっていく」「こういう姿を求めていく」といったような、その中で言葉を作っていけば、何かヒントになるのではないかとと思う。</p>
<p>教育長</p>	<p>理念というものは大きなものなので、やはり子どもの可能性というものがあるので。例えば学習指導要領の中に「生きる力」というのがあります。生きる力というのは、一人ひとりが生きる力が謳われてい</p>

るけれども、それは子どもの持っている可能性・無限の可能性があるので、教育はまずそこに置いておく必要がある。その中で具体的に生きる力をどういう分野にその子が活かしていくか…ということになっていくとそれは「貢献」という部分で、いろいろな貢献ができると、そこへ「貢献」が入ってくる。イメージとしてはそう思うが。協力という分野で考えたときどうでしょうか。何処で生きていこうと、その子が生きる場所は、世界中どこでもあるわけですが、その中で最大限力を活かして、地域に貢献していく。その中で黒潮町に貢献できる子どもを育てるという視点に立った時には、黒潮町として何ができるのか、教育の部分で何ができるのか。

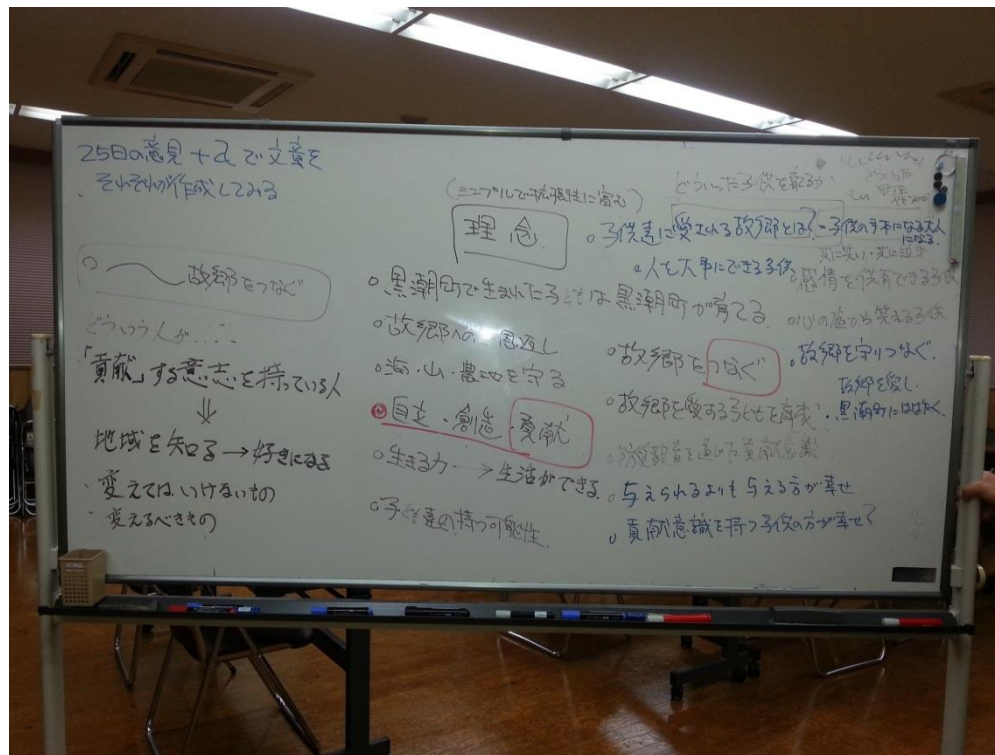
町長

「故郷を繋ぐ」というのはどうでしょう。

教育委員
(池田)

これが理念になるのか、はっきりしたものはないですけども「黒潮町・故郷を愛する子どもを育てていく」というのがあって、そういう子どもが育つと自然に地域へ帰ってくるし、地域への貢献をする子どもができるのではないかと。「では、どうすれば」というとまだ分かりませんが。

各委員から「理念」に関する意見が出される。
(出された意見等をホワイトボードへ記載)



(ホワイトボードの転記)

◎ ————— 故郷をつなぐ

どういう人が・・・

「貢献」する意思を持っている人

↓

- ・地域を知る→好きになる
- ・変えてはいけないもの
- ・変えるべきもの

☆どういった子どもを育てるか

☆どういった町を作るのか

理念 (シンプルで拡張性に富む)

- 黒潮町で生まれた子どもは黒潮町が育てる
- 故郷への恩返し
- 海・山・農地を守る
- 自立・創造・貢献
- 生きる力→生活ができる
- 子どもたちの持つ可能性
- 故郷をつなぐ
- 故郷を愛する子どもを育成
- 防災教育を通じた貢献意識
- 与えられるよりも与える方が幸せ
- 貢献意識を持つ子どもの方が幸せ？
- 故郷を守りつなぐ (故郷を愛し、黒潮町にはばたく)
- 感情を共有できる子ども (共に笑い、共に泣き)
- 心の底から笑える子ども
- 子どもたちに愛される故郷とは？ = 子どもの手本になる大人になる

<p>教育委員 (山下) 教育委員 (都築) 教育長</p>	<p>「つなぐ」というのは全てに係ってくる。いいのではないか。</p> <p>「故郷」は原点なので、未来へ「つないで」いく。先へ繋いでいく。</p> <p>「故郷をつなぐ」というのは後にくる言葉ではないか。根底にあるのは「故郷をつなぐ」ということであるが、教育の観点からいくと「故郷」だけでは小さいと思います。教育は故郷だけではないので、広がりという言葉でない。</p>
<p>事務局 (西村) 教育次長</p>	<p>言葉にとらわれ過ぎず、将来像や子どもたちにこう育ってほしいといったような意見を出していただければ。</p> <p>仕事をしながら、あるいは地域に住みながら「どういう人が欲しいか」と自分に聞いたときに、行政マンとしては、多く納税してくれる人といったことがありがたいが、一般的に考えると例えば保護者であれば、学校行事とかP T A活動に積極的に参加してくれる人とか、あるいは、町民大学にはこちらが困るほど聞きに来てくれる人とか、地域で祭りがあるときには手伝いに来てくれる人とか、何かそういう人が町民としてはありがたいなと考えたときに、難しい言葉で言えば「貢献」ですが、貢献というのは労力を提供するというやり方もあるし、ふるさと納税のようにお金を提供するやり方もあるし、あるいは、物を寄付する、場所を提供する、情報を出す、知恵を出すなど貢献の方法は沢山あるわけで、お金の量や労働力の多さ、年齢などに関係なく、常に故郷に貢献する意識を持っている人が欲しいです。今、黒潮町に住んでいる人は、代々ここで生まれて育って住んでいる人もいれば、よそに出ていった者もいるし、逆に縁はなかったが何かのきっかけで住み始めた人など、いろいろな人がいるが、どんな人であっても黒潮町にいる限りは、地域に貢献すると…貢献意識を持ってくれる人。そのために教育は何をするのかというと、地域への愛着や誇りなど地域への帰属意識を育てる。それは小中学生だけではなくて、社会人・大人に対しても学校教育・社会教育で地域への帰属意識・誇りなどを育てることが教育は目指すべきなのかと、みなさんの議論を聴きながら感じました。故郷を出て行ってもいいが、故郷に対する貢献意識を忘れないような人を育てるとするのが行政としての思いかもしれない。</p>
<p>教育長</p>	<p>貢献ということだけが前に出過ぎるのはどうなのか。教育の理念として貢献だけになると…。</p>

教育次長	<p>なので、先ほど出た「故郷への愛着」とか「誇り」ということを「地域でどうやって育てていくのか」というところに目標を置くような理念がいるのではないかと考えます。</p>
教育長	<p>親としての本音、例えば子どもには近くに居てもらいたいという本音と、きれいな意味での本音。先ほど次長が言いましたが、貢献というのは、世界中何処にいても出来るしある。親としては残ってもらいたい。残ってもらいたいのは親のエゴですけど、子どもには可能性があるわけで、いろんなところで活躍してもらいたいという思いを持っている親もいるかもしれない。故郷という思いは、行政にいたので黒潮町しか見えないけれども…。</p>
事務局（西村）	<p>抑えるべきところとしまして「子どもの可能性」というところがあり、その上で、今、作ろうとしている黒潮町の教育大綱の中で、一つの選択肢として、マイナス要因だけでなく子どもにプラス要因・誇りを持てるような材料・情報を提供した上で、将来をどのようにしていくのかということを選んでもらえたらいいのではと思います。町長が地元の高校とかで話を聞く時、地元へ残りたいと言ってくれる子どもも結構いるようで、ただ、その子が思うマッチした仕事がない、環境がないということで、外へ出ていくということもあるらしいので、そうすると、整えることのできる環境は少しでも行政として対応していくことも必要だと思います。</p>
教育委員 （池田）	<p>子どもは、こちらに大学がないので一度は出ていくと思うけど、親としては、こっちに戻ってきてほしいという気持ちはあります。例えば、戻ってきて四万十市とか近辺で働いて黒潮町に住んでもらう。そうすると住民税とかあって、それも地域への貢献という意味ではあると思います。自分の子どもとして考えると、一端外に出て、何か資格を身に付けて帰ってきて、こっちで働いてほしいという思いはあります。働ける場所、黒潮町に限らずこの辺りで働ける場所があれば、帰ってきてほしいという思いはあります。</p>
教育委員 （濱田） 教育委員会 （橋田）	<p>働く場所がなければ生活をしていけない。働く場所がほしいです。</p> <p>目の前の子どもたちしか相手にしていなかった時には、すごい先のことっていうのはなくて、先ほど見たグラフ（人口ビジョン）で2060年、その時の働き盛りの人がいつ頃生まれるのかと考えると、2015年、今年生まれた子どもが、2040年に25歳。となると、今生まれた子ども</p>

	<p>が暮らしていくことを考える必要があると思うと、大きなテーマだと思えます。理念が何処に焦点を当てたらいいのか分からなくて、子どもの姿なのか、町としての思いなのか分かりませんが、自分が四万十市在住で黒潮町に住んでいないので、黒潮町に勤務すると黒潮町のものが目につくようになりました。知り合いのお土産に黒潮町のものを持って行ったりとか、そういうふうになにかがあって、それを地元ではないところにおいても、手に入れることができたりとかすると、そのことも貢献になったりするのかなと思う、そうなると思う。「愛する子ども」ということなのかなと思う。</p>
事務局（西村）	<p>今回、難しいのは、既に教育振興基本計画において基本理念として「自立・創造・貢献」ということが、しっかりと謳われていて、これまで出てきたことなどが網羅されているからではないでしょうか。しかし、今回の策定は、行政の目線といいますか、行政としての立場として、「人口ビジョン」は無視できません。やはり「故郷を守る」「黒潮町を維持していく」というのがどこかにいるのではないかな。そうすると、Iターン、Uターンは当然のことながら、地元で育った子どもが帰ってきてくれる。地元に残って親の仕事を継ぐ子どもなど、残ってくれる子どもをどうやって増やしていくのかといったことを少し教育振興基本計画の理念の中に入れていきたいとなります。そこで「教育の視点」と「行政の視点」の違いが出て、融合するというのが難しいのではないのでしょうか。</p>
教育長	<p>何処にいても、故郷のことを一番に思いつつ…そういうことが「つなぐ」ということになるのだが。</p>
事務局（西村）	<p>先生、いま教育の中で故郷への愛着であるとか、誇りであるとかを教えたりということはあるのですか。</p>
教育委員会（橋田）	<p>道徳とかいろいろな場面で教えています。希薄になっているので、教えるようになってきているのかもしれないが、地域のこととかの学習もしますし、地元の産業なども学習します。地域を守る人ということも勉強します。</p>
副町長	<p>自立・創造・貢献というのが前に書かれていますが、やっぱりこの3つは、すごいと思ってみておりました。「自立」というのがそこに書かれてある「生きる力」ではないか。私は「生活」ということをいつも思っていて、生活できるように自分は何を学ぶのか、誰かから教</p>

	<p>わるのかというのは、「生活するため」とか「生きるため」に何かをする。そこが気になっている。まず、生きる力というのが一番あって、それから社会貢献などいろいろなものがでてくるのかなど。生きるために何を学ぶ必要があるというのが、学校であったり家庭であったりとかと思っているところです。そして、故郷というところですが、以前、児童館に勤務したことがあります。故郷が嫌になって出ていく子どもがいたことがあります。そうすると誇りを持ってという話にはならない。ではどうしたらいいのかというと、とにかく故郷を好きになることが必要で、好きになるというどうすればいいのかとなり、まず地元のことを知ろうと、知れば地元のことを好きになるのではないかと。ということで、いろいろな仕事や場所を見に行ったり、お父さんがやっている仕事を見に行き、何をしているのか知るというのを先生たちと一緒に児童館でやったことがあります。やはり、知ることから入るのが大事ではないかと思いました。</p>
教育委員 (濱田)	<p>子どもは、居心地のいいところじゃないと残らないと思います。自分と合わなければ「こんな町は嫌だ。出ていきたい。」となる。この町が好きになるということは、周りの人が自分を大事にし、居心地良くおらせてくれるというのが大事ではないか。</p>
教育長	<p>ここにいる皆さんは、地元に残った方たちですが、何がきっかけで残ったのでしょうか。</p>
教育委員 (濱田)	<p>結婚がなかったらよそで働いていました。</p>
教育委員 (都築)	<p>都会に憧れたことがない。地元しか知らない。</p>
教育委員 (濱田)	<p>でも、一回出てみたら故郷の良さが分かって、故郷をこうしよう、ああしようという心が芽生えるかも。</p>
教育委員 (都築)	<p>「心」であったり「夢」であったり、広がりをもてるような言葉が入ればと思う。</p>
教育委員 (池田)	<p>女の子なので出て行かれると結婚して帰ってこなくなるかもしれない。できれば帰ってきてほしい。私は一度大阪の学校に行き、戻ってきたが、ここに帰ってきたかった。なぜかと考えると、こっちが暮らしやすいし、親の元、安心ができるというのがあった。やっぱり故郷が好きという思いがあり、学校が終わったら帰ってこようという</p>

	<p>思いは持っていました。</p>
<p>教育委員 (都築)</p>	<p>変えてはいけないものと、変わらなければいけないものというものが2つ大きく分けたらあると思う。今まで繋いできたものが変えてはいけないものであったり、これから変な方向へいこうとしているものを変えていこう、いい方向に変えていこうとする、そんなことが理念を考えるとクローズアップされてくるのではないか。</p>
<p>町長</p>	<p>町には総合振興計画がありますが、そこで謳われているのは「人が元気、自然が元気、地域が元気」です。漠然としたイメージでしかありませんが…、けっしてこういうことですよということではありませんのでご理解ください。私がこんな感じかなと思っていることがありまして…、どういった子どもを育てるかという教育委員会の計画がありまして、どういった町を作るのかという計画が、町の総合振興計画でして、部分的にはリンクしていますけれども、全てが合致しているということでもありません。イメージ的にはこんな感じかと思っています。(お休ボード板書) 少し町長部局の意見を(教育振興基本計画へ)入れていただくといった感じです。度々例に出しますが、カツオ船の跡継ぎをどうやって作るのかというのは、どちらかといえば産業施策として今までは扱われてきた側面があるのではないかと思います。カツオ漁のすばらしさを知っていただいたり、あるいは体験していただいたりということを少し教育委員会の方でお手伝いいただけることがあれば、いままで産業施策としかやっていなかった後継者育成の効果が倍増するかもしれないということです。</p> <p>繰り返しにはなりますが、町長部局としましても「何が何でも黒潮町を支えていっていただくために教育はあるべきである」といったことを言うつもりは全くございません。子どもたちがそれぞれ個人個人、豊かな人生を着実に実現していただく。そのために「自立・創造・貢献」が必要ということで、(教育振興基本計画を)取りまとめていると思っています。そしてそれを最大限配慮しながら、且つ、地元貢献していただきたい、産業を守っていただきたい、社会も守っていただきたい、おじいさんやおばあさんも守っていただきたい、といったことが理念で謳われてしっかりと基本計画にプログラミングされているといったようなことができればと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>ちなみに高知県の基本的な教育理念というのは、教育振興基本計画にありますので見てみてください。「郷土を愛し、世界に羽ばたく心豊かで逞しく、創造性に満ちた子どもたちの育成」とあります。もう</p>

<p>教育次長</p>	<p>一つありまして「学ぶ目的や意義を自覚し、自ら学ぶ力を持った人間の育成」です。計画には「郷土を愛し、世界に羽ばたく」ということを入れています。</p> <p>貢献という言葉で、例えば故郷に貢献する意識というのは、ここに居ても出て行っても常に持ってもらいたい、そういう町民に私はなってもらいたいというのをお話ししたのと、今、思ったのは、私たちが進めている防災教育もまさしく、子どもたちが防災教育を一生懸命やることによって地域の大人たちから評価される。そのことによって「自分は地域に貢献しているんだ」という貢献意識が育てば、必然的に子どもたちの学習意欲も高まって、学力も高まるのではないかという仮説で片田先生たちと取り組んでいます。多分それは間違いないと思います。8月に田辺でやった防災教育会議においても、どなたもおっしゃっていたのでその仮説は、多分間違いないと思います。そうしますと貢献という言葉は、大人からいうと「地域への貢献という意味」と、「子どもたちに貢献する意識を育てることによって必然的に勉強のできる子どもになる」といった一つのキーワードにもなる気がしました。</p>
<p>町長</p>	<p>この言葉はすごく好きでして、3つ並んでいます（自立・創造・貢献）、なんとなく前ふたつは本人のことといいますか主体性といいますか…、こっち（貢献）は、どちらかというと客体があってそこへの貢献ということで…。多分私たちとしては、貢献してくれる子どもが育っていくと、故郷が繋ぎやすいのかなということもありますけど、貢献意識を持っている子どもの方が多分幸せだろうと思います。何のエビデンスもないですけど。故郷になんら何の意識も持っていない方より、何か1つ身に付けられて、それによって故郷が好きになって、何か貢献したいと思う子どもの方が、多分幸せではないかと思います。</p> <p>以前、この言葉をキーワードに「どんな町になったら幸せか」ということを次長から提案いただきまして、私が思ったのは、例えば保育所や小学校・中学校を通じて貢献する活動を…、理念に謳うだけで基本計画に盛り込まなければ、単なる言葉でして理念をいかに具現化していくかというのが今回の大綱と基本計画ですので、これをどう社会的に醸成していくのか。例えば保育所の時には、夕食を食べると食器等を洗うのをお手伝いしました。といったことを貢献ノートみたいなものに記されて、それを保育士さんが「よかった。できましたね」と、年長くらいになるともう少しハードルが高くなって、週一回が週二</p>

	<p>回、週三回となり、小学校になるとゴミ拾いましたなど、段々とハードルが上がっていく、そして、嫌々やるのではなくて、何らかのインセンティブがあって…、その結果、次長が言うには、こういう町になるそうです。そこら辺を歩いている保育園児が道端で「貢献、貢献」といいながらゴミ拾いをしているような。少なくとも周りは幸せだと思います。私は基本的に理念というのはそういうものだと思っていて、堅苦しい言葉も必要ないですし、もっと言えば、「ひとりの園児が一年で貢献という言葉を使えば1000回使う町」といったことでもいいと思いますし、何よりも子どもたち自身が幸せではないかなと思います。</p>
教育次長	<p>多分、人というのは、与えられるよりも与える方が幸せなんではないかと思います。ですから貢献というのはまさしく、与えられるのではなく、与える幸せを醸成するといいますか。与えられるのは、一瞬は幸せですけども、与えることの方が多分幸せなんではないでしょうか。</p>
町長	<p>段々と子どもの幸せとか町の幸せとか、掘り下げられていっている感がでてきたように思います。</p>
教育長	<p>だいぶイメージ的には見えてきた気がします。</p>
教育委員 (濱田)	<p>人が好きになったり、町が好きになったりしたら、自然とその人のため、その町のために貢献しようとする気持ちが湧くと思います。先ほど教育長が県の理念を言ってくれましたが「故郷を愛し、黒潮町に羽ばたき…」というような。故郷を愛したら自然と貢献はしたくなるし、するようになると思います。</p>
町長	<p>理念を作るのは難しいことですが、これができると目標等は進んでいくと思います。</p>
事務局 (西村)	<p>だいぶ出てきましたし、出来てきていると思います。ホワイトボードに板書したことは、矢印で回るようなことになっていて繋がっているように思います。それぞれの言葉が補足し合って、説明し合っているので、これを整理しまとめると筋が通ったものになるようなところまでできているのかなと思います。</p>
町長	<p>これから第3回、第4回と会議の回数を重ねていく時に相談しよう</p>

事務局（西村）	<p>思っておりますが、例えば本日出し合ったことで粗方出来そうになった時に、校長先生のご意見をお伺いしたり、漁師の方にご意見を伺ったり、保護者の方にご意見を伺ったりしたいと思うことがあると思います。そういったことを次回等に調整しながら進めたいと思います。</p> <p>一度、今日出されたものでまとめてみましょうか。たぶんそれでOKということにはならないと思いますので、それをたたき台にして議論していけばと思います。それぞれみなさんで文章にさせていただくとより良いものができるのではないのでしょうか。簡単なものでいいと思いますので、次回までに考えてきていただけたらと思います。</p> <p>本日はこれで、閉めたいと思います。</p> <p>それでは、次回は10月27日（火）佐賀庁舎で15時30分からということをお願いします。</p>
---------	--